

## 1. はじめに

### (1) 計画策定の背景

本市では平成20年2月に「新城市地域公共交通総合連携計画（以降、連携計画）」を策定し、バス路線や鉄道の維持・活性化に向けた施策に取り組んできました。

しかしながら、人口減少・少子高齢化・モータリゼーションの進展などにより、公共交通の利用者は減少が続いており、公共交通の維持が危機的な状況となっています。

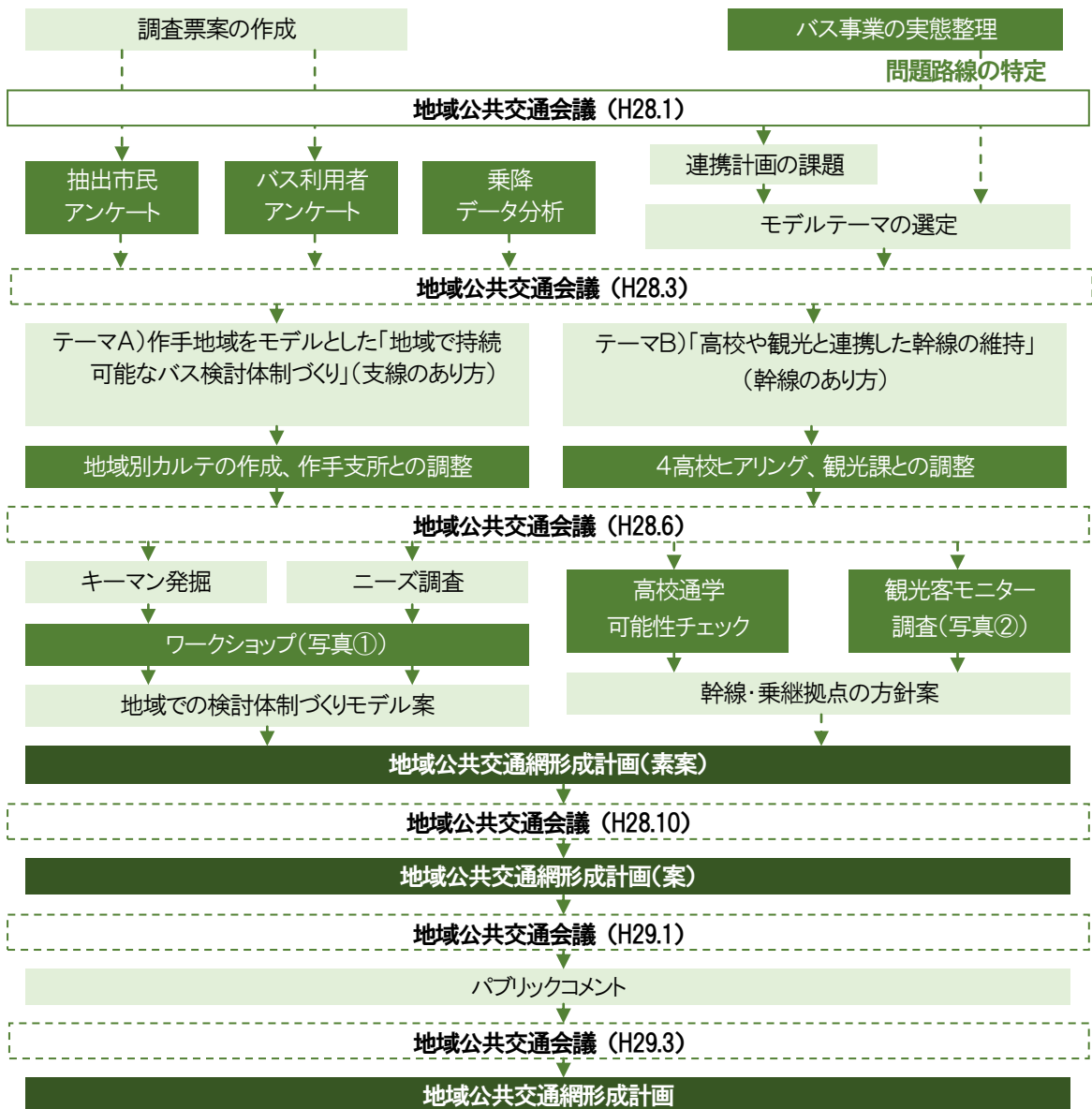
連携計画は、策定から8年が経過し、新たな課題の顕在化や周辺状況の変化が起きてきており、こうした課題に対応しづらくなっています。その他、将来にわたり市民が利用しやすく持続可能な公共交通体系を確保・維持していくためには、より一層の効率的・効果的な公共交通体系を検討する必要があります。

こうした背景を踏まえながら、地域住民が公共交通に関心を持ち、地域で公共交通を守り育てる仕組みの構築に向け、地域住民の機運が高まる方策を整理し、計画として取りまとめるものです。

### (2) 計画の期間・区域

計画の期間：平成29年度～平成33年度（5カ年）	計画の区域：新城市内
--------------------------	------------

## 2. 計画策定の流れ



### 3. 地域公共交通の課題整理

#### (1) 連携計画の課題

- 地域と行政の関係づくりが不十分 (=やや「行政主導」)
- PDCAが不十分 (=定期的なデータの取得とカイゼン活動を行っていなかった)
- 地域の活力増進に向け、地域資源との連携を図る必要性
- 路線ごと・便ごとの役割を明確化する必要性

#### (2) 地域との連携に関する課題

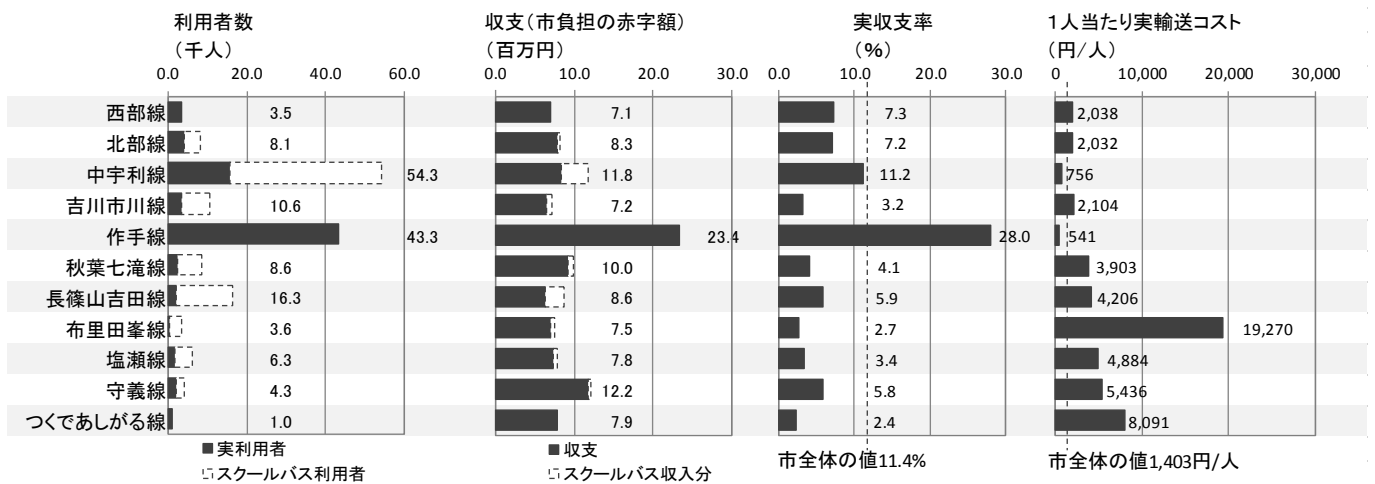
- つくであしがる線の利用者が極めて少ない
- 固定客のみが利用しており、新規利用や低頻度の利用がほとんどない
- 集まる場・待合の場と合わせて検討する必要性 (ライフスタイルの提案)

#### (3) 既存資源との連携に関する課題

- 乗継拠点の整備 (連携計画からの宿題)
- 市内3高校にバスで通えないエリアが存在する (入学希望から外れてしまう可能性)
- 観光部局との連携による交流人口拡大の必要性

#### (4) 地域別の課題

市民アンケート、バス利用者アンケート、乗降データ分析等から、10地域それぞれの課題を整理しました。



#### 路線別の経営状況

写真① ワークショップ実施の様子



写真② 観光モニター調査



本長篠駅

バス時刻表が掲載されているが、B・Tまでの地図や連絡先はない。



四谷千枚田口停留所

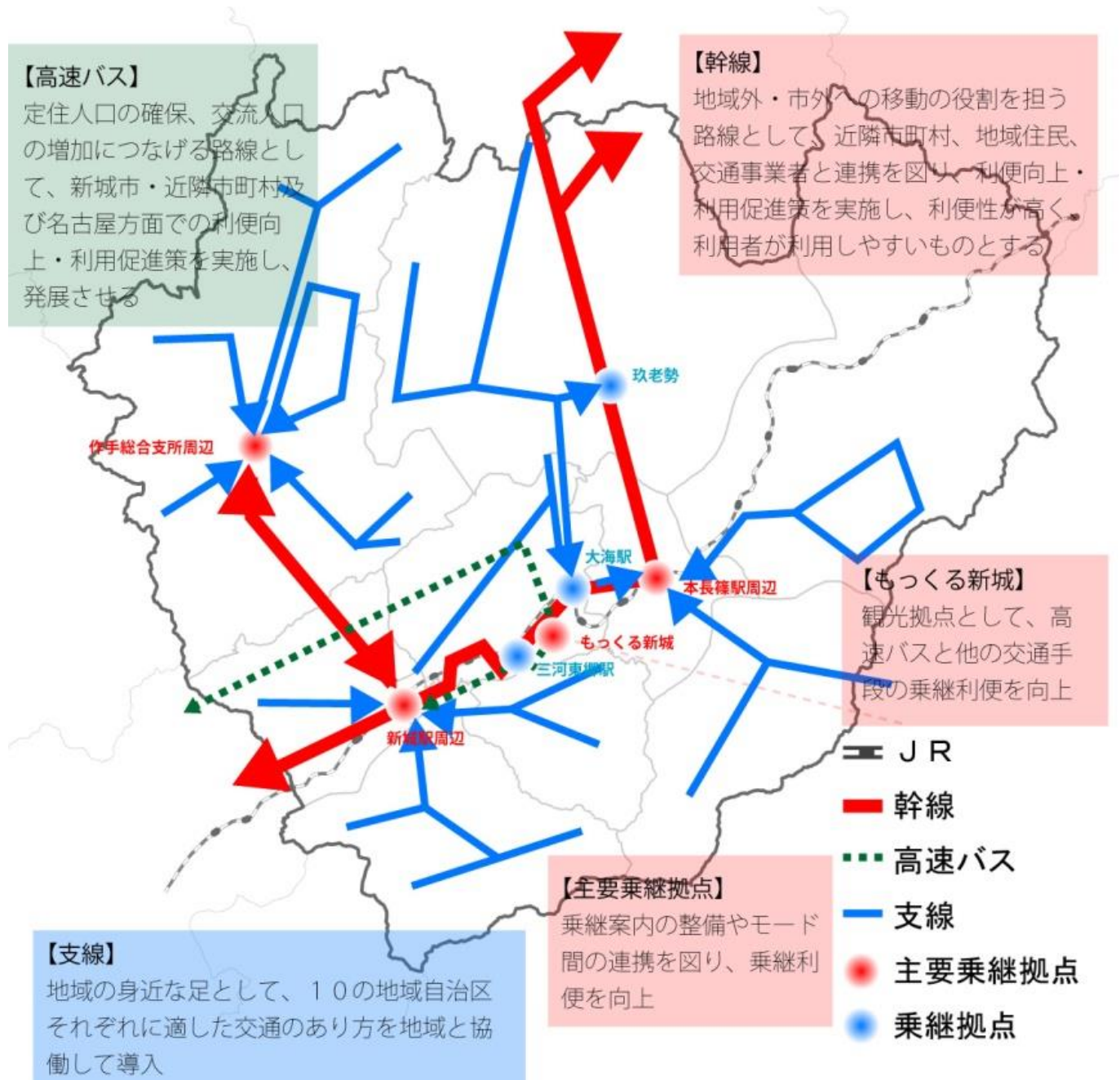
四谷の千枚田までの地図がなく、道を間違えて遠回りしてしまった。

## 4. 基本的な方針と施策・事業

### (1) 基本理念

公共交通の現状と必要性を全市で共有し、  
一人ひとりが公共交通を維持・発展させていきます

### (2) 将来の公共交通ネットワーク





### (3)基本方針と具体的な事業

基本方針	具体的な事業	実施主体
【方針1】 公共交通の現状を地域と共有し、地域・行政・交通事業者で公共交通網を作ります	1-1 地域・行政・交通事業者で公共交通を支える体制作り	新城市地域公共交通会議、新城市、地域住民、交通事業者
	1-2 幹線の運行 利便向上策・利用促進策の実施	新城市地域公共交通会議、新城市、近隣市町村、地域住民、交通事業者
	1-3 支線の運行 利便向上策・利用促進策の実施	新城市地域公共交通会議、新城市、地域住民、交通事業者
	1-4 高速バスの運行 利便向上策・利用促進策の実施	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	1-5 タクシーの運行・利用促進	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	1-6 福祉有償運送の運行	新城市地域公共交通会議、新城市、福祉有償運送事業者
	1-7 スクールバスの運行と公共交通との役割明確化	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	1-8 近隣市町村・交通事業者と連携した公共交通ネットワークの形成	新城市地域公共交通会議、新城市、近隣市町村、交通事業者
	1-9 乗継拠点の整備	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	1-10 公共交通空白地有償運送の普及	新城市地域公共交通会議、新城市、NPO法人等
	1-11 代行輸送サービスの導入	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
【方針2】 組織間の連携を図り、関係者と一体となって利便向上にさせます	2-1 高校と連携した高校生の通学利便促進	新城市地域公共交通会議、新城市、高校
	2-2 観光部局や交通事業者との連携による交流人口の拡大	新城市地域公共交通会議、新城市、新城市観光協会、交通事業者
	2-3 各種施設周辺バス停の待合環境改善	新城市地域公共交通会議、新城市、市内各施設管理者
	2-4 健康づくりと連携した利用促進策の実施	新城市地域公共交通会議、新城市
	2-5 高齢者の運転免許自主返納を促進する施策の実施	新城市地域公共交通会議、新城市、新城警察署、交通事業者
	2-6 交通バリアフリー化の推進	新城市地域公共交通会議、新城市、新城警察署、交通事業者
【方針3】 地域に愛され、「利用したくなる」公共交通を作ります	3-1 バス総合マップの改善	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	3-2「マイマップ」の提供	新城市地域公共交通会議、新城市
	3-3 検索サイトへのSバスのダイヤ情報掲載	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	3-4 バス乗車体験イベントの実施	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者
	3-5 バス乗り方教室・出前授業の実施	新城市地域公共交通会議、新城市、交通事業者

## 5. 計画の達成状況の評価

### (1)計画の目標

目標	現状	目標
① Sバス等の利用者数・市支出額・収支率	Sバスの利用者数	159,839 人 (H27) ⇒ 170,000 人 (H33)
	Sバスへの市負担額	111,809 千円 (H27) ⇒ 現状維持 (H33)
	Sバスの収支率	18.3% (H27) ⇒ 19.4% (H33)
② 民間路線バスの利用者数	民間路線バス利用者数	201,767 人 (H27) ⇒ 現状維持 (H33)
③ 高速バスの利用者数	高速バスの利用者数	4 人/便程度 (H28) ⇒ 20 人/便程度 (H31)
④ バス利用者の満足度	バス利用者の満足度	1.10 (H27) ⇒ 1.16 (H33)
⑤ Sバスに対する認知度	Sバスに対する認知度	82.1% (H27) ⇒ 90.0% (H33)
⑥ 「地域での検討会議」の設置数	「地域での検討会議」の設置数	0 地域 (H27) ⇒ 全地域 (H33)
⑦ 高校との協議会の場の設置	高校との協議会の場の設置	0 校 (H27) ⇒ 市内全校 (H33)

### (2)評価の方法及びスケジュール

- 計画の評価は、最終年度（平成 33 年度）には各種アンケート調査を実施し、計画全体及び地域公共交通全体の評価・検証を実施し、次期計画の策定を検討します。
- Sバス路線の利用者数・満足度・収支率の評価については、計画に定めた最終の数値目標を基に毎年度数値目標を設定し、実施します。
- 利用者数・収支率については、全体の数字だけでなく、小中学生のスクールバス利用を抜いた実利用者数・実収支率についても数値目標を設定し、評価します。
- 幹線・高速バスの利用者数・満足度の評価についても、計画に定めた最終の数値目標を基に毎年度数値目標を設定し、実施します。
- 評価結果については、新城市地域公共交通会議だけではなく、各地域に報告し、フィードバックを行い、改善につなげていきます。